

先週の礼拝メッセージ(2023年8月13日) ベン牧師

「神の栄光が現されるために」 ヨハネによる福音書 9:1-7

今週から3回シリーズで、ヨハネ9章からメッセージを取り次ぎます。

イエス様一行は道すがら生まれつき目の見えない人を見かけました。弟子たちはイエス様に質問します。

「先生、この人が生まれつき目の見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも両親ですか。」(2節)

当時のユダヤ教の教師たちは、先祖や親の罪の結果として、障害のある人が生まれると教えていたのです。しかし聖書はそんなことは一言も言っていません。むしろ、旧約では、裁かれるのは罪を犯した本人であって、親や先祖は関係ないと明言しています。(例: エゼキエル 18:20)

このイエス様と弟子とのやりとりは、日本人にとって非常に興味深いものではないでしょうか。なぜなら、日本にも、前世で悪いことをしたから、あるいは先祖の祟りで、今、悪いものを受けているという考え方があからずから、あるいは先祖の祟りで、今、悪いものを受けているという考え方があからずから、そしてそれを利用して、新興宗教などは入信や寄付を要求し、その被害にあっている人が多くいると言う事実があります。

「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。」(3節)と、イエス様はお答えになりました。そして、唾で土をこねて、彼の目に塗り、シロアムの池に行き行って洗うようにとおっしゃいました。シロアムとは「遣わされた者」という意味です。これはイエス様ご自身が、父なる神から遣わされたお方であることから、遣わされた者の池に行くということは、イエス様のもとに来なさいと暗示しているのです。彼は言われた通りに池に行き行って目を洗い、癒されました。

もちろん、イエス様のもとに行く人すべてがいやされるわけではありません。パウロは身体になんだかの病を持っていました。3度も癒しを求めましたが、

「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」(コリントⅡ 12:9)

これが神様の答えでした。彼は、「キリストの力が私に宿るように、むしろ

ろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。、、、私は、弱いときにこそ強いからです。」(9、10節)と告白するのです。

私たちは自分でできると思うと祈ることを忘れ、できないことがある時には真剣に祈るという弱さをもっています。しかし聖書は、私たちに力があるであろうがなかろうが、いつも神により頼むことを教えています。ですから、弱さがある、問題があるということは、ある意味恵みなのです。弱さの中に神の栄光は、さまざまな形で現されます。ヨハネ9章の目の見えない人は、目が癒されるということで神の栄光が現されました。パウロは、病を持ったままであっても、宣教旅行において多くの人に福音を語るということを通して、神の栄光が現されました。

クリスチャンの周りに、あるいは教会に、弱さや障害を持っている人がいらっしやるということは、神様の栄光を拝する大きな恵みが与えられていることなのです。なぜなら神の愛を实践する時であるからです。また、時には私たちが助けられる側になることもあります。

いずれにせよ、弱さや障害は、神の栄光が現される大きな恵みの時であることを忘れないでおきましょう。神様は私たち一人一人の人生において、ご計画をお持ちです。そして試練や困難は必ずやってきます。

皆さんはフットプリントという詩をご存知だと思います。ある人が夢の中で自分の人生を振り返ると、イエス様と自分の2人分の足跡が見えました。しかし数箇所、1人分だけの足跡でした。その時は彼が最も困難を覚えていた時だったので、イエス様に「なぜ私と共にいてくださらなかったのか」と尋ねると、イエス様は「その時はお前をおびっして私は歩いた」とおっしゃったという詩です。

あなたの問題はすぐに解決するかもしれない、あるいは病は癒やされるかもしれない、しかしもしかしたら、長い期間を要するか、障害を持ったままの人生かもしれない、しかし、はっきりと言えることは、そこにイエス様はいらっしやるということです。そして、あなたの弱さや問題、障害を通して、神様の栄光が現され、あなたの人生は輝くということです。あなたは神様が目的を持って造られた、神の作品です。その目的とは、神の栄光があなたを通して現されることなのです。そこからまた一步、イエス様と共に踏み出そうではありませんか。